

PDFで開くビジネスチャンス

前回までに、フォームやマルチメディアといった Adobe Acrobat（以下、Acrobat）の印刷用以外に使用する機能について見てきました。

フォームやマルチメディアといった機能を利用している部分は、印刷用データとしてのPDFでは後工程で問題が出ないようにプリフライトで取り除いてしまいます。

しかし、このような印刷用データには必要ないためプリフライトで取り除いてしまうような機能でも、活用方法によっては印刷という仕事には有効な機能となり得るのではないのでしょうか。

次に挙げる3つの項目は、PDFの特徴の中でも特に印刷用のデータフォーマットとして有効なものです。現在PDFが印刷用データの標準フォーマットになったのは、このような特徴と電子送稿が普及した点が大きいと思います。

- ①フォントや画像、図版等のデータがコンパクトにまとまっていて容量も軽いため通信ネットワークでの配信に適している
 - ②PDFを作成する時の設定で品質をコントロールすることが可能で品質の標準化が行いやすい
 - ③閲覧に特別な環境を必要としないため、誰もが容易に目視で確認ができ、プリフライトによって品質の確認も簡単にできる
- また、PDFには次のような特徴もあります。

- ①電子フォームとして利用できる
- ②文字や画像だけではなく音声や映像など様々なデータをコンパクトにまとめることができる
- ③強固なセキュリティで文書内容を保護することができる

これらのPDFの特徴は、印刷用のデータフォーマットとしてはあまり関係ありませんが、PDFが情報配信の標準フォーマットとして広く普及した理由であり、PDFの利用方法は、印刷用のデータフォーマットではなく情報配信の標準フォーマットとして認知されているのが一般的です。

そして、現在流通している多くのPDFは、インターネット等での情報配信や電子フォーム、電子カタログ等、印刷用データ以外に利用されています。

これらの印刷用データ以外のPDFの中には、印刷に使用したデータから用途に合わせて作成したものもありますが、PDFの元は印刷用データではないがそのPDFの内容は印刷物として配布しても効果があると考えられるものもあり、印刷と全く関係ないわけではないと思います。

そして、このようなPDFを利用している多くの方が印刷の新たな顧客となり得る人だと考えると、まだまだ潜在的な仕事は多くあり、PDFの活用がその仕事を掘り出すきっかけになるような気がします。

PDFは、印刷用データとして利用されるようになって

て久しいため、印刷用のPDFの国際標準規格であるPDF/Xや、PDF/Xの安全性や信頼性をさらに高めるためのPDF/X-PlusJ等、印刷用データとしてPDFを活用する技術も大きく進歩してきました。

PDFを印刷用に活用するには、プリフライトで内容の確認をして印刷工程で問題の発生する要素を事前に取り除くことが重要ですが、プリフライトのチェック項目であるプリフライトプロファイルを作成するには知識や経験が必要です。(図1)

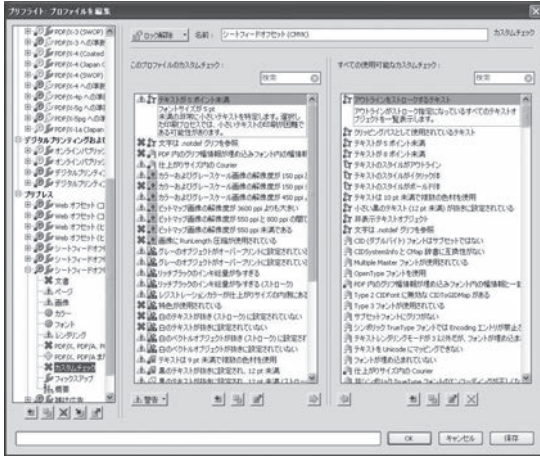


図1 Acrobatのプリフライトプロファイル編集画面

PDF/XやPDF/X-PlusJといった規格には、標準的なチェック項目や修正項目などが含まれていますので、プリフライトプロファイルを作成するための知識や経験がなくても印刷用PDFのチェックが行えます。このような便利なツールを利用することで印刷用データとしてPDFを活用する技術的なハードルは低くなります。さらに、このような規格の一部はPDF作成設定として、AcrobatやAdobe InDesign、Adobe IllustratorといったDTPアプリケーションにあらかじめ組み込まれており、設定を選ぶだけで一定品質の印刷用PDFを作成することができます。(図2)

このようなツールを活用することで、ワークフローの効率化やコストダウンを実現することも可能ですが、PDFを活用しただけで受注が大きく増えるというわけではありません。さらに受注増を目指しそれを実現するには、顧客について知り、顧客の要望を探り、ニーズに合わせた提案や商品を開発する必要があります。

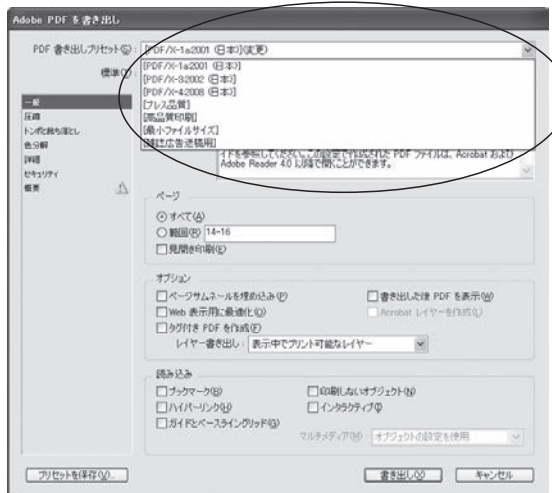


図2 Adobe InDesignからのPDF書き出し

そのために、広く多くの方が利用しているPDFの印刷用以外の用途や機能に着目することは必要ではないでしょうか。

PDFを印刷用データとして活用し、本業である印刷の効率化やコストダウン、安全性の向上を図ることができた次には、PDFを印刷用以外にも活用することで新たなビジネスや市場を開拓することもできるかも知れません。

PDF/X-PlusJ推進協議会で策定しているPDF/X-PlusJという規格は、かなり完成度の高いPDF運用を実現可能なツールでもあります。このような技術開発はたいへん重要ですが、やはり技術だけでは受注は増えてくれません。

PDF/X-PlusJ推進協議会でも、技術開発の先の市場開拓の必要性を重視し、上位団体である特定非営利活動法人プリントミックスでは、印刷用PDFのみならず幅広く活動すべく次のような専門協議会が設けられています。

デジタルプリント協議会

デジタルプリント市場の開拓方法や商品開発、販促等でのクロスメディア展開。

プリントマーケティング協議会

印刷市場を開拓するための仕組み作りや印刷会社の商品開発、営業マネージメント。

Webパブリッシング委員会準備室

ウェブ業界から見た印刷業界、印刷とウェブの接点や印刷会社での活用方法。

デジタルパブリッシング協議会

社内ワークフローの構築、Macintosh データの問題点、Windows データの安全な処理、ネットワークを活用した入出稿。

PDF/X-PlusJ 推進協議会

PDF/X-PlusJ の策定と普及、PDF 関連およびデジタルワークフローに関するセミナー開催。

プリントミックスでは、7/29 に第一回設立記念セミナーを開催し、5つの各専門協議会の紹介やディレクター、ゲストスピーカーによる講演が行われました。(図3)



図3 プリントミックス設立記念セミナーの様子

今後のイベントやセミナーの詳細、各協議会からのお知らせ等はプリントミックスのwebサイトで公開されており、9月11日(金)には第二回設立



図4 プリントミックスのwebサイト

記念セミナー(有料)、9月28日(月)には第三回設立記念セミナー(有料)が開催されます。(図4)

このような、セミナーで得られる情報の中にも新たなPDF活用のヒントがあるかも知れません。

また、アドビシステムズ社のwebサイトにあるAcrobatファミリーの製品紹介ページにも、ビジネスユーザー向けのAcrobatの活用方法や事例が紹介されており、ここで紹介されている中にも、今まで知らなかったAcrobatの使い方や活用方法があると思います。(図5)



図5 Acrobatファミリー製品紹介ページ

Acrobatはアドビシステムズ社のwebサイトで体験版もダウンロードできますので一度試してみたいかがでしょうか。

<今回紹介したソフトウェア等>

- ・ Adobe Acrobat ファミリー 製品紹介
<http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/>
- ・ Adobe Acrobat 9 Pro 体験版のダウンロード
<http://www.adobe.com/jp/products/acrobatpro/tryout.html>
- ・ PDF/X-PlusJ 推進協議会
<http://www.pdfplus.jp>
- ・ 特定非常利活動法人プリントミックス
<http://www.printmix.org>